

生物科学学会連合 第11回連絡会議記録

日時： 2004年1月22日（木）午後1時～2時30分

場所： 生物科学学会連合事務所内会議室（東京・本郷）

出席者： 山本 正幸（本年度世話役、日本分子生物学会） 石和 貞男（昨年度世話役、日本遺伝学会）
河野 重行（日本遺伝学会） 山科 正平（日本解剖学会）
後藤由季子（日本細胞生物学会） 米田 好文（日本植物学会）
小幡 邦彦（日本神経科学学会） 八杉貞雄（日本動物学会、日本発生生物学会）
深田 吉孝（日本比較生理生化学会） 菅原 美子（日本比較生理生化学会）
山下 政克（日本免疫学会） 松木 則夫（日本薬理学会）
（欠席） 日本植物生理学会 日本進化学会 日本神経化学会 日本生化学会
日本生態学会 日本生物教育学会 日本生物物理学会 日本生理学会
日本比較内分泌学会 （敬称略、学会名五十音順）

配布資料： 0. 第11回連絡者名簿（2004.1.22現在）
1. 第10回連絡会議記録（案）
2. 研究体制に関する提言書
3. 少量核燃料物質の使用に関する規制についての提言書
4. 日本学術会議第141回総会資料
5. 公開シンポジウム「21世紀の生物教育はいかにあるべきか」
6. 生物科学学会連合運営に関する申し合わせ事項

議事要旨：

会議に先立ち、故丸山工作先生へ哀悼の意を表し黙祷を捧げた。次いで、昨年12月の大学入試センター主催のお別れ会に、生科連としては弔電を送ったことが事務局より報告された。

1. 第10回記録の確認（配布資料1）

原案通り承認された。

2. 提言書提出の経過報告

石和氏と事務局2名（山口、大谷）が12月16日に文部科学省を訪問し、松木秀彰研究振興局学術研究助成課評価専門官、高見沢志郎同課企画室企画係長、ならびに赤間圭祐科学技術・学術政策局基盤政策課事務次官、井出太郎同課係長とに提言書（配布資料2）を提出した。提言書に対して、岡本薫研究助成課課長からは文書による回答があり、基盤政策課からは意見交換会という形でご回答いただくことになった経緯が石和氏より説明された。

3. 少量核燃料物質の使用に関する規制についての提言書

山科氏（解剖学会）より以下の報告があった。

- ① 1月15日に文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課原子力規制室 杉山和幸室長補佐と森本靖之氏とに会い、生科連として提言書（配布資料3）を提出した。
- ② 文科省側は問題の所在を把握しており、電子顕微鏡の使用を大幅に制限しないような形での

規制を今後1年間かけて検討したいという慎重な姿勢であった。

4. 科研費作業説明会について

石和氏より、1月20日に学術会議で開かれた「学術体制常置委員会及び研究連絡委員会等役員合同会議（科研費作業説明会）」の概略が配布資料4に基づいて紹介され、若干の問題点が指摘された。

5. 公開シンポジウムの提案について

小林興氏発案の「21世紀の生物教育はいかにあるべきか」（配布資料5）の取り扱いについて事務局から相談があった。生科連という組織の性格も考慮し、学会からの提案としていただくよう、米田氏に仲介をお願いすることとなった。

6. 申し合わせ事項の改訂

世話役の輻輳制について、申し合わせ事項（配布資料6）の第6条に「1名の世話役代行をおき」を、たとえば「前期世話役と次期世話役とからなる2名の世話役代行をおき」とする提案が事務局よりあったが、今後引き続き検討していくこととなった。

7. 来年の世話役について

植物生理学会をお願いすることとなった。

8. 次回連絡会議について

第12回連絡会議は3月中旬ごろを予定。

以上

特別事項：議事要旨2に関連して、連絡会議終了後、午後3時より、文部科学省の河村潤子科学技術・学術政策局政策課課長，倉持隆雄同局基盤政策課課長，および生化学会から村松喬、山村博平両教授の同席を得、12月に提出した提言書に関して意見交換会が行われた。